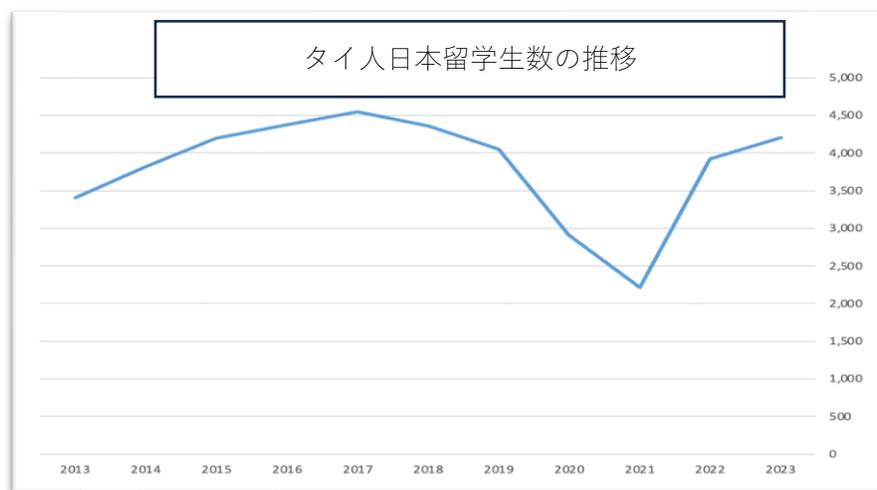


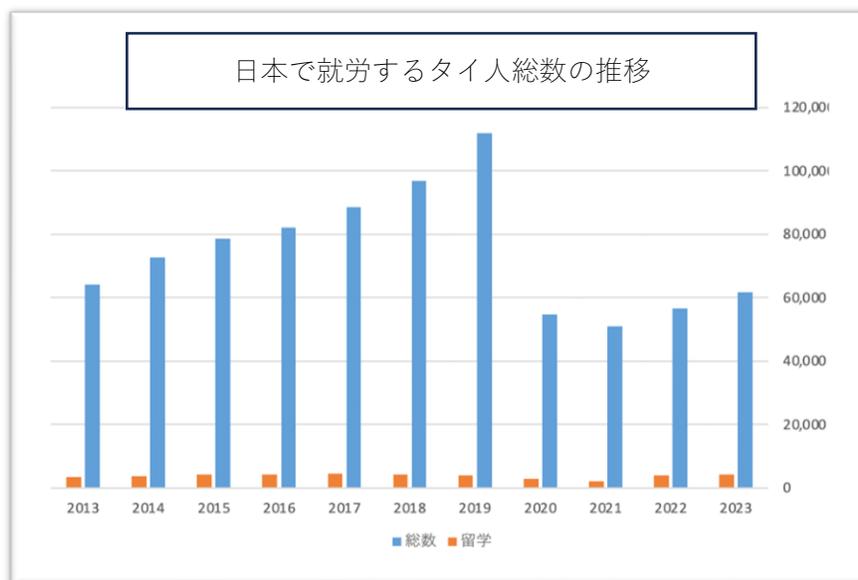
タイ人の日本への留学状況について

今回のレポートでは前回特集したバンコク日本博の主な来場層となっているタイ人日本留学生の状況についてレポートします。

コロナ禍で減少していた日本に来るタイ人留学生の数は回復し、コロナ以前の数値まで勢いを戻しつつあります。



しかしながら、日本で就労するタイ人総数は下記に示すようにコロナ後に回復しているとはいえ難しく、日本に留学したからという理由で、そのまま日本で働きたいと考えるタイ人は減少傾向にあるようです。



背景として「近年タイ、中でもバンコクの生活が豊かになり、同時に給与が上昇している」とい

う点があげられます。特に日本での就職にこだわらなくても快適な生活がタイで待っているため、タイ国外での就職に対してハングリーになる必要はなくなったといえます。

またそもそも日本に留学するタイ人は、タイのトップクラスの大学に在籍している、または卒業した層であり、高度人材候補が日本に留学しているという状況になっています。こうした人材がその後も日本で働き続ける理由は乏しく、むしろその経験を活用してタイ本国の成長企業やさらなるグローバルキャリアに挑戦するという傾向にあります。

とはいえ、同時にそういった高度人材層こそ日本でなければできない仕事やアクティビティーを見出しているという側面もあり、そういったニーズに着目して将来的なタイ進出を見据えた日本企業が積極的にタイ人高度人材を採用しているという話をしばしば聞きます。前回ご紹介した日本博のようにタイ国内の状況を見ても和食やアニメ、アイドルなど、日本の文化に対する興味は変わらない盛り上がりを見せており、日本への留学に対する関心はまだしばらく維持されると考えられます。

今後もタイ人高度人材候補にとって日本が留学の主要候補（アメリカ・イギリス・オーストラリアに次いで世界第4位）であるという点は、日本企業にとって機会の一つになりえると言えるでしょう。